

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.251
Jan, Feb, Mar, 2011



JID月報：通巻251号
平成23年1月・2月・3月号
発行日：平成23年3月31日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話03-5322-6560 FAX03-5322-6559
発行人：喜多 俊之

社団法人日本インテリアデザイナー協会

目次

巻頭：東日本大震災のお見舞い

トップコラム	2
本部報告（総務委員会）	2
本部報告（国際委員会）	3
本部報告（選考委員会）	4
支部活動報告（関東事業支部）	4-5
〃（中部事業支部）	5-6
〃（関西事業支部）	6-7
〃（九州事業支部）	7-8
トピックス	9
〃	10
MEMBER'S SALON	11
〃	12

事務局からのお知らせ 13

この度の東日本大震災により被災された皆様には
心よりお見舞いを申し上げます。
皆様の安全と一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

東日本大震災（東北関東地方太平洋沖地震）のお見舞い

理事長 喜多 俊之
本部総務委員会委員長 伊藤 公一

東日本大震災に対する義援金募集について

3月11日に三陸沖を震源に発生した東日本大震災（東北関東地方太平洋沖地震）は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録しました。津波と火災では多くの被災者が出ており、東京電力福島原発爆発などの発生で多くの方が避難を余儀なくされています。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地にお住まいの皆様のご無事と一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

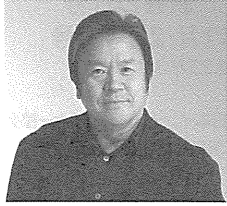
そこでJIDとしても社会活動の一環として何らかの支援ができないだろうか、理事会で検討いたしました結果、会員の皆様に義援金の募集を行うことになりました。

このような趣旨にご賛同いただければ幸いです。ご賛同いただきました皆様には恐縮ですが下記の口座へ義援金をお振込みいただきたくお願い申し上げます。義援金の額については、会員各位のご意志にお任せいたします。

集まりました義援金は、日本赤十字社など適切と思われるところへお渡ししたいと思います。尚、締切を4月20日（水）迄といたします。よろしくお願い申し上げます。

振込口座：みずほ銀行 新宿南口支店 普通 1749959

口座名義：社団法人日本インテリアデザイナー協会



TOP COLUMN

2011年をインテリアの元年に！

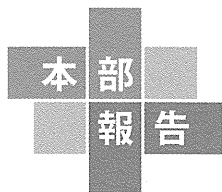
理事長 喜多 俊之

2011年は、私達にとってインテリア元年として、本格的なインテリア業界の活性化に向けて歩み始めようという今年のテーマを推奨したいのですが、あらためて暮らしの空間や公共の空間など、私達の日常には多くの空間との出会いがあります。

会員の皆様には、この協会を盛り上げていくことに協力していただき、誠にありがとうございます。若い会員の方々の入会が、関東、関西、中部、九州において見え始めたことは、とても朗報だと思っています。

今年は、春のミラノサローネをはじめ、秋のタイ国インテリア産業視察や、多くのセミナー・フォーラムなどが予定されています。会員の皆さまには、ぜひこれらに参加していただき、多くの機会に様々な分野の方々とのコミュニケーションを発展させ、活気のある協会の姿になっていくことを心から期待しております。

人々が集まり、その中でのお話から多くのことが実現へと結びつくことは、様々な事例が示すところであり、インテリア空間がシアターのように創造されていく様は、本当に楽しいものです。



総務委員会

担当理事：佐藤 健一
委員長：伊藤 公一



2011 JID NEW YEAR'S PARTY 報告

総務委員会委員 道明 三千代

寒い日でしたが、例年より早く“2011 JID NEW YEAR'S PARTY”は2011年1月14日(金)18:30から事務局のある新宿パークタワーを離れて、近くの新宿ワシントンホテル別館宴会場(桜)にて開催されました。

昨年の総会にて就任された喜多俊之理事長をはじめ、経済産業省製造局デザイン・人間生活システム政策室室長の来賓ご挨拶に始まり、招待客19名と賛助会員31名他正会員を合わせて105名の方々が集まり会場は活気を帯びていました。

会場は男性が多いため、司会進行は富田さん、尾崎さんの若手2人の女性にお願い致しました。

喜多俊之理事長ご挨拶の後、日本サインデザイン協会会長に乾杯をお願いし、関東事業支部のイベント紹介から歓談に入りました。

久しぶりに出会う懐かしい方々、今年は賛助会員も多く参加されて、飲み物、食事など多くの方が楽しそうにお話に花が咲いていました。

本部総務委員会の広報として原さん、尾崎さんが毎回会員企業と打合せの上作成している「JIDビジネスパートナーズEXPRESS」のメルマガ新年号もすでに3号として配信され、2月には本部広報委員会のご協力により、JIDホームページのトップページNewsから先に配信されたメルマガをすべて見る事が出来るようになりました。

中田副理事長の中締めご挨拶で盛況のうちに閉会となりました。

インテリア業界を取り巻く状況は依然厳しい財政環境が続く中、歴史ある JID の今後を示唆するような活力と成長を感じることが出来ました。

今年は協会全体で広く社会に貢献してJIDの活力を認知していただけると確信致しました。

本部報告

国際委員会

担当理事：岩倉 榮利・酒井 正人
委員長：高田 公平

国際・交流の新しい動き

理事 岩倉 榮利

前回の理事会において「JIDの新しい取り組みと動き」に関して喜多理事長より話がありましたが、諸外国との交流や、会員同士の交流を深めるための催しを、国際理事である私と酒井理事とで担当することとなりました。各事業支部には国際交流の部門がありますのでJID全体で話し合いながら、海外研修・見本市見学・企業視察などを計画し実行していきたいと思っております。

ところで私事ではありますが、現在私が取り組んでいる経済産業省のJAPANブランド育成支援事業「tobi」ブランドを、1月にパリで開催された国際展示会「メゾン・エ・オブジェ」に出展、世界デビューという形で発表して参りました。

このプロジェクトは素材や技術といった地域資源を活かした製品・サービスを作り出し、世界に通用するブランドの創造を目指している事業であり、「tobi」ブランドは東京都家具工業組合からの有志の参加企業9社のメンバーを東京商工会議所が様々な面でサポートし、プロデュースを高田公平、デザインを岩倉榮利というJID国際委員会のメンバー二人が担当しております。

3月にはアジア各国での国際展示会があり、4月には喜多理事長も力を入れておられるイタリアでミラノサローネが開催されます。

また6月は「インテリアライフスタイル展」、9月の大阪は「リビング&デザイン展」、10月には台湾で「IFI国際会議」、11月は「IFFTインテリアライフスタイルリビング展」と大変盛り沢山のスケジュールではありますが、JID会員全体で元気に楽しく実行していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

IFI Global Symposium 参加ご報告

国際委員会委員 森 美香子

ニューヨークで、2月に行われた「IFI Global Symposium」に出席して来ました。

シンポジウムは、マンハッタンのグランドセントラル駅近くのHAWORTHのショールームでのレセプションパーティーから始まりました。シンポジウムの初日は、セントラルパークの近く国立美術館:Museum of Arts and Design内のカンファレンスルームで、

IFI理事長のシャシ・カーンの開会宣言とゲストレクチャーの基調講演からスタートし、オフィス家具メーカー:STEELCASEに移動して、昨年IFIシンクタンクが開催された、香港、ドイツ、ブラジル、イギリス、アルゼンチンの代表からの報告、新たな加盟国のトルコ、アルゼンチン、アメリカ、ロシアの代表からスピーチがありました。

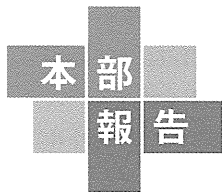


グループディスカッションは「IFIデザインフロンティア:インテリアの本質」について、7つのグループ 1:VALUE 2:RELEVANCE 3:RESPONSIBILITY 4:CULTURE 5:BUSINESS 6:KNOWLEDGE 7:IDENTITY に分かれて行いました。(私はIDENTITYに参加)多国籍のグループ内で、自己紹介と行っている仕事の内容を伝え、国々によって違うインテリアデザイナーの名称を確認しあい、ディスカッションは初日と2日目の両日行われました。その結果を発表、シンポジウムの最後は、今後の方向性を打ち出すコンセンサスを確認して、IFI Interior Declaration (インテリア・アーキテクト/デザインの原理を捉えた文書)に参加者全員がサインしシンポジウムは終了しました。



今回のシンポジウムの出席者は、ヨーロッパ、北米、南米、アジアから約100名余りで、大半は大学関係者や研究機関のスペシャリストで、大変アカデミックなシンポジウムで、私自身は、言葉の壁や経験不足から十分な発言が出来きませんでした但有意义的な経験をしました。別れ際に、理事長シャシ・カーンからは、日本のJIDが参加してくれたことへの深い感謝を伝えられました。

・IFI (International Federation of interior Architects/Designers) は、JIDが加盟しているインテリアの国際団体です。



選考委員会

担当理事：川上 玲子
委員長：木村 戦太郎

2012年JID賞ビエンナーレ・ポスター 応募要項について

選考委員会委員長 木村 戦太郎

2012年度JID賞の応募要項がお手元に届いたと思います。
今回のデザインはJAGDA会長の勝井三雄氏にお願いしたもので
モダンな中にもどこか懐かしさも感じられ、繊細且つ大胆な表現
が特長と思いましたが、皆様の感想は如何ですか。

特別審査員には、ポスターデザインをお願いした勝井三雄氏に
はデザイナーとして、日経アーキテクチャ編集長の真部保良氏
にはジャーナリストとしてご参加いただき、理事長の喜多俊之氏
にも当協会の代表としてご参加いただきます。

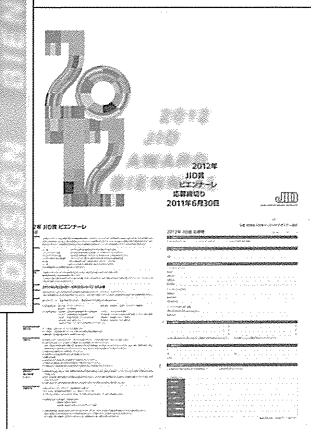
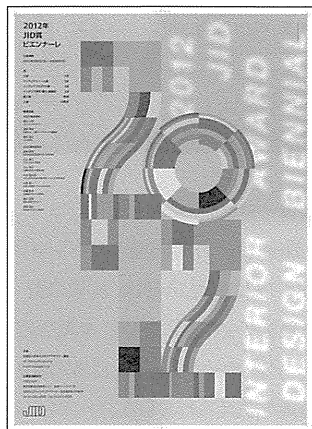
本年10月に予定される最終審査では、有意義な議論が交わされ
るものと期待しています。

さて応募要項は3月上旬に配布し、JID.HPにもアップする予定で
応募期間は本年5月2日(月)～6月30日(木)となります。

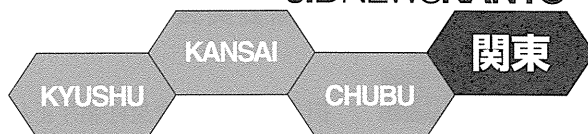
JID賞ビエンナーレは今回で4回目ですが、皆様のご協力のおか
げで毎回順調に応募者数を伸ばしてまいりました。しかし、各部
門間に応募数の偏りがあり、常にスペース部門の応募が過半数
を占め、研究・著作・業績部門、プロダクト部門は減少傾向にあり
ました。そして前回ついにスペース部門のみの受賞となりました。
選考委員会ではこれを重視し、応募者の掘り起こしに努力するつ
もりですが、会員各位にもこの点にご協力頂きたいのです。

JID賞の対象として優れた作品や業績などにお気づきの際は、そ
の方々への声かけやご勧誘をお願いします。

JID賞選考事業の発展には会員各位のご支援ご協力が不可欠で
す。どうか宜しくお願い致します。



JIDNEWSKANTO



事業委員会/研究委員会合同プロジェクト

「集まれ子供インテリアデザイナー・学校
を作ろう」イベント事業の支援を行なう。

関東事業支部

事業委員会副委員長 小野上 勝志

本年、四月に港区白金台に開校の「こどもクリエイ塾」((株)ビジョ
ンゲート(東京))開校プレイベント・ワークショップの支援を行なっ
た。

これは、先方がJID50周年記念事業で行なった「JIDこどもインテ
リデザイン学校」のJIDホームページ報告を見て支援を依頼して
きたものです。

今回は、JID独自の模型作り授業と先方のコンセプトをミックスし
た新たな手法の受託事業の試みとして依頼を受け実施した。

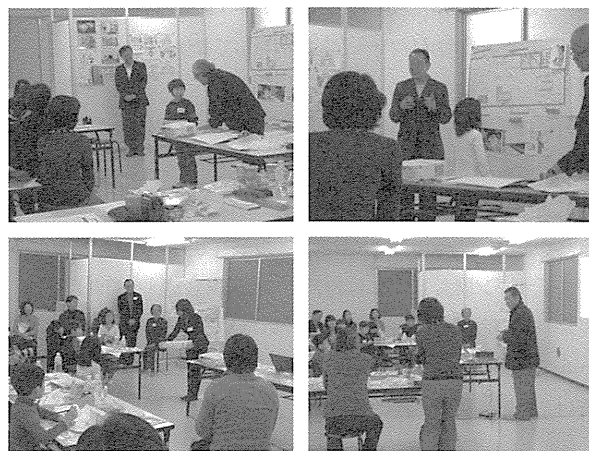
事業内容：子供達にデザインのプロセス

～模型作り～教室のレイアウト～家具の選定までのワークショップ

実施期間：2011年2月13日から3月27日の間(5回に分けて実施)

参加者：約20名(こども9名 保護者含む)

指 導：合同プロジェクトメンバー



今後、多方面からJIDとのジョイント委託(受託)事業等が見込め
ることが予測される。

受託に関してはJIDの複数の委員会での対応や新たな体制での
対応が求められて来られると思われる。JIDの継続的経営の安定を図
るには事業収入の拡大が必然である。

今回の受託事業を経験して、改めて事業受託体制についてフレ
キシブルな組織・運営方式・ルールを早急に整備する必要性を感じ
た。

「温故知新・伊勢の旅」報告

関東事業支部

総務・組織委員会委員長 池田 和修

昨年秋開催のセミナー日本の意匠「温故知新」物語第2話のオプション企画として、2月11日から1泊2日の旅程で『温故知新・伊勢の旅』を実施しました。伊勢ご出身のサイレントグリス(株)社長豊田彰氏(賛助会員)に案内役をお願いし伊勢神宮の外宮と内宮の正式参拝、御神楽奉納、二見浦賓日館や神宮徴古館の見学、セミナー講師の矢野憲一氏・采野武朗氏両先生との懇談会など、なかなか体験できない特別な旅となりました。皆様のご協力により素晴らしい旅が実現できました事を感謝いたします。



参加者の皆様には、多くの「旅の感想」をお寄せいただき誠に有難うございました。ここにその一部をご紹介します。

●残念ながらセミナーには参加できなかったのですが、十分に伊勢神宮の素晴らしさ、日本人の素晴らしさを肌で感じることができました。雪の中での「正式参拝」は荘厳で身が引き締まる思いでした。

<港区K.T様>

●雪の伊勢は感動の連続でした。かなりの人出だったと思いますが、其の雑音が私の中ではかき消されていて、凜とした空気感、荘厳さ、何者も犯しがたいすごい威厳、素晴らしい体験をいたしました。伊勢神宮全てがパワースポットでした。<世田ヶ谷区T.H様>

●豊田さんの説明があったからこそとても有意義で楽しい旅行になりました。わたしの友人もとても満足したようです。名物の蛤を買えなかったのが残念ですが(笑)……<神戸市Y.I様>

●今回の旅で、御装束神宝の実物を拝見させていただけたことの意味を時間が経つにつれ、じわーと感じ始めております。「モノ」そのものよりも、その「心」を伝承することに価値を置いてきた日本人の叡智に感服すると同時に誇らしさも感じます。<目黒区R.W様>

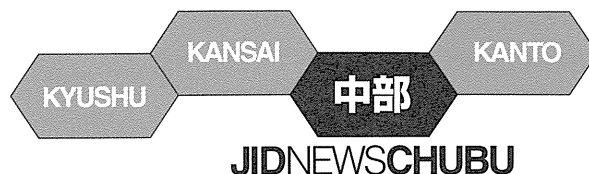
●心掛けのよさには自信がありましたが、雪かと思いつつ、豊田さんのお話を聞きながら、これがいんだと思える(洗脳される?)ようになり、勉強になりました。<渋谷区T.K様>

●初めてづくしの伊勢神宮の参拝、ありがたうお参りができましたこと心からお礼申し上げます。翌日からの出張でも、思いもよらぬ好展開があり、おかげ参りのありがたさが継続しております。

<高知市K.N様>

●大変充実した、また、完璧な研修をさせていただきました。余裕のあるスケジュールが良かったと思いました。たくさん詰め込むのではなく、伊勢と二見に限って、ゆっくり見れました。そして何よりも、矢野塾長と采野さんの専門的なお話が聞けたことが良かったです。

<新宿区M.T様>



中部インテリアデザイン連絡会

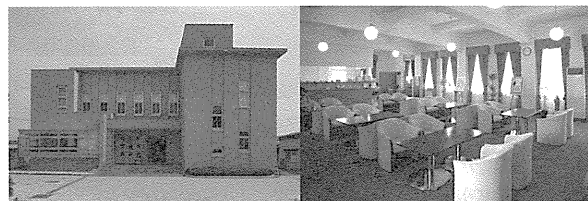
新年名刺交換会

中部事業支部

支部長 小林 修

平成23年新年が明けた1月12日、中部事業支部が所属するインテリア関連団体で構成する連絡会の呼びかけにメンバー以外の企業や大学の方々が参加され、名古屋工業大学キャンパスの校友会館(昭和7年竣工の古い建物が当時の面影を残し修復リニューアルされた)café salaにおいて、新春交流パーティーを開催。インテリアも古い様式と趣を残しながら修復され、イタリアン料理の店が外部に委託されレストランカフェとして運営されているために、料理も本格的なメニューがパーティーの為に用意され、ワインの貴重な種類が提供される中で、JIDメンバーの安藤さんが用意したメゾン・エ・オブジェの取材映像スライドショーが解説と共に会場を盛り上げた。

新しく参加した企業のメンバーも、JID中部の日頃の活動に興味を示して頂き新たな取り組みを感じさせる有意義な新年名刺交換会となった。



「校友会館の外観とインテリア」

学校快適構想委員会と

新設笹島小中学校見学会開催

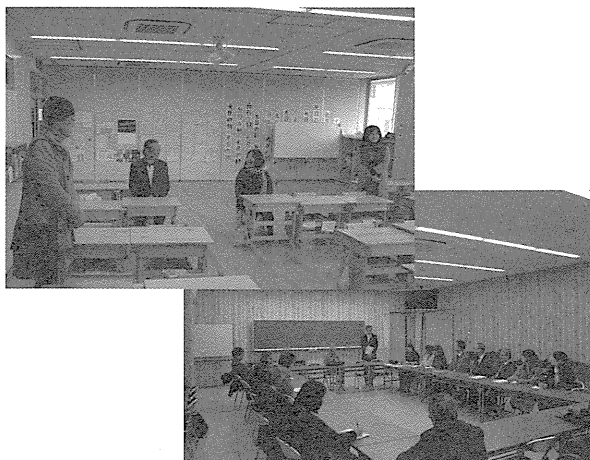
中部事業支部

理事 木辺 智子

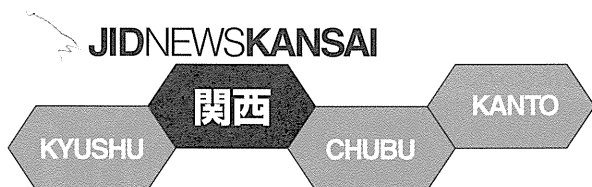
中部事業支部では今年度より、中部インテリアデザイン連絡会で発足した既存の小中学校のインテリアを考える「学校の校舎快適構想委員会」と同じように委員会をたちあげ活動しております。今回1月19日には名古屋市では初めての開校となる小中一貫教育の笹島小中学校の見学会を開催いたしました。

名古屋市の中心地となる名古屋駅周辺の地域は生徒数が減少し、新明小学校と六反小学校、やはり生徒数の少ない笹島中学校と統合し小中一貫校とし今年の4月に新設開校したものです。都心の学校だけあって6階建て、運動場も人工地盤の上にあり、地下に同じ大きさの体育館を持つ、限られた敷地を有効に活用した計画の学校です。伝統的なお祭りの山車なども展示され地域との連携も深く感じられる空間づくりでした。準備期間から深く携

わっていらっしやる宮島教頭先生より苦労話や、生徒さんの生活の様子など多様なお話をお聞きすることができました。



その後TOTO名古屋ショールームのパブリック設備等を見学し、マルチスペースDにおいて委員会を開催しました。新しい考え方の小中学校が作られる中、既設の小中学校の空間をより快適なものにしようと活動をしているわたしたち学校快適構想委員会が良い運動となり行政などへの提言をしていけるよう頑張っていきたいと思っています。



「新春交流会2011」開催

関西事業支部

副支部長 塚口 眞佐子

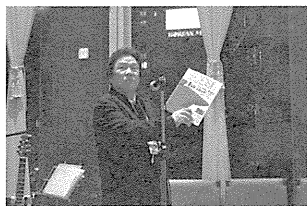
文字通り春の訪れを感じさせる立春の候、JID 関西新春交流会が、2月4日夕刻、本町の国際ビル2Fレストラン mitteにて開催されました。スタイリッシュな会場は新人会

員の間宮吉彦氏のデザインによるもの。こころなしか、集うメンバーもいつもよりファッショナブル、デザイナーの集団らしいひとときでした。

ミラノから帰国したばかり、翌日はバンコクに飛ぶというスケジュールの中、駆けつけた喜多俊之理事長の挨拶に続き、目にも彩な和服姿でご登場くださいましたのは主賓の近畿経済産業局サービス産業室長 田口一江氏。エールを込めた祝辞をいただきました。

引き続き、「この年齢で新人とは～」と笑いを誘いながら登場したのは新人会員の間宮吉彦氏と景山隆司氏。

両人のアピールもさらにパーティを盛り上げます。協賛企業様や



賛助会員のひと言のあと、待ちかねた乾杯。このあとは、生演奏をBGMに、豪華なお洒落な雰囲気のパティータイムとなりました。



およそ50名の参加者のうち、半数が非会員という盛況ぶりは、支部長はじめ支部会員の総力もさることながら、喜多理事長のオーラに負うところ多々です。「インテリアを軸に素敵な暮らしを」という理事長のメッセージがまさに体现されるような、期待感と高揚感が会場を包みました。

このようなパーティも JID のプレゼンテーションの一つかもしれませんが。デザイナー自身が夢を体现している存在であることが大切、と今年度の総会時のシンポジウムでも語られていました。その一員になって、来年はあなたもご参加なさいませんか。



第2回「素敵なくらしセミナー」報告

関西事業支部

研究セミナー委員会 鬼田 勲

第2回目の「素敵なくらしセミナー」を前回同様、喜多俊之理事長の「ギャラリーanima」で開催しました。

今回はリフォーム、リ・デザインについて、「劇的ビフォーアフター 愛する住まいのつくり方」と題して、JID会員で匠の大野晃貴彦氏が講演しました。

大野さんはリフォームの匠として大改造劇的ビフォーアフターに3回出演されています。

今回の講演内容の詳細は、

□素敵なお生活

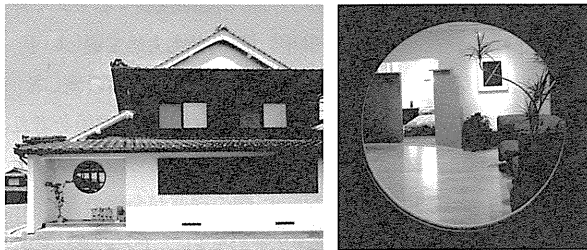
- ・身じかには自分の好きものだけを置こう……(整理術)
- ・生い先をを考え自分のものを知ろう……(管理術)
- ・友人を呼んでお茶しよう……(コミュニケーション)

□新しい技術と古くからの知恵を生かそう

- ・自分の生活スタイルにあったリフォームデザイン・・(快適)
- ・和の生活の中に楽しさと豊かさがある・・・・・(癒し)
- ・本物の素材、質、美を見つけよう・・・・・(伝統工芸)

として、素敵なくらしのための「術」を説かれ、大野さんの建築哲学を垣間みる思いでした。さらに数多くのリフォーム事例をスライドショーで説明され、まさにビフォーアフターの感動ものでした。参加者からの質問に応じて、「大改造劇的ビフォーアフター」の制作でのディレクターとのやり取りや施主の思いなど、建築家としての大野さんのご苦勞を裏話として、お聞きすることもでき、会場はおおいに湧きました。

参加者アンケートにも全員が「良かった」と言う回答でした。また、14名の方々に新たにJIDフレンズ・Kansaiへの入会希望があり、この会が一步前進した思いです。



開催日時：平成23年 2月19日(土)

場所：ギャラリーanima

参加人数：30名+(JID会員12名)

後援を頂きました、団体及び企業

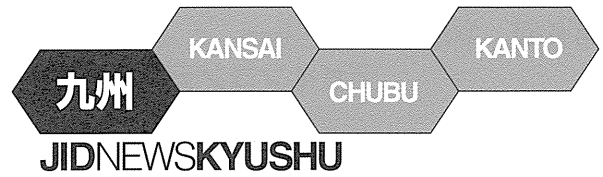
(財)大阪デザインセンター、(社)総合デザイナー協会、(社)関西インテリアプランナー協会、日本色研事業(株)、(株)ビビッドヴァン、大阪デザイン団体連合機構、日本インテリア学会関西支部
(株)都市建築



話しに熱が入り、立上がる大野さん。



作品の説明をする大野さんと受講者の皆さん



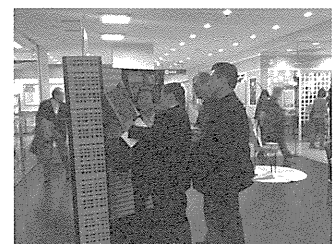
2011九州インテリアデザイン展 学生ファニチャーデザイン展「座るかたちのデザイン」 九州事業支部 支部長 江島 太士

九州インテリアデザイン展は、九州事業支部の大きな事業の柱として、隔年で開催するものです。今年はプロダクトデザインで世界的に活躍されている喜多俊之理事長を特別講師にお迎えして福岡での開催となりました。

学生のファニチャーデザイン展も支部の恒例事業となりましたが、今年はBivi福岡という若い人に人気の天神のど真ん中での開催となり、多くの方に見ていただけるチャンスをつくることが出来ました。

【開催内容】

- ・展示会：九州事業支部会員・賛助会員の作品展
ならびにパネル作品による会員の紹介とJIDの広報
- ・喜多俊之特別講演会：2月5日(土) 15時30分～17時30分
- ・第6回学生ファニチャーデザインコンテスト
- ・JID会員・賛助会員による学生作品の審査
- ・第8回学生ファニチャーデザイン展
学生が主体とするテーマ「座る形のデザイン」の学生作品の展示
- ・表彰式・交流会
JID理事長・会員・賛助会員・学生との交流会



開催用ポスター

開催期間：平成23年2月5日(土)～11日(金)

会場：展示会Bivi福岡 3階

学生展Bivi福岡 1階ホール

イベント：学生ファニチャーデザインコンテスト

審査日時：2月5日(土) 13:00～15:30

講演会：2月5日(土) 15:30～17:30

会場：Bivi福岡 MAKIハウス横特設会場

表彰式・交流会：2月5日(土) 18:00～

会場：なるみ乃

後援：福岡県デザイン協議会/NPO法人FUKUOKAデザインリーグ/福岡市/(社)インテリア産業協会九州事業支部/(協)大川家具工業会/(財)大川総合インテリア産業振興センター

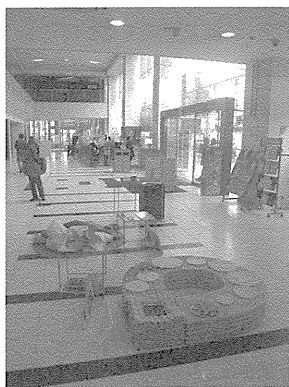
第6回 学生ファニチャー デザインコンテスト開催！

九州事業支部

事業委員会委員長 飯田 一博

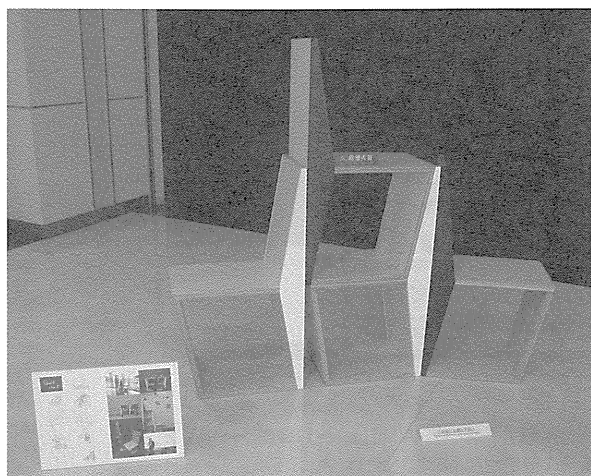
6回目の「2011学生ファニチャーデザインコンテスト」を福岡の家具やりホーム・インテリア雑貨を中心にショップ展開をしているBiVi福岡で2月5日(土)～11日(金)まで開催しました。

3年前の第三回目の福岡の天神のアクロス福岡一階のアトリウム以来の福岡の中心地での開催でした。



BiVi福岡 展示会場

審査には賛助会員2名、会員7名、大学教員1名の10名の審査委員。審査委員長を喜多理事長にお願いして審査に入りました。学生は作品の前で、自分でプレゼンテーションを行うことができることを伝えていました。デザイナーの意見が直接聞ける訳です。



最優秀賞 境智美「Self chair」

最優秀賞、境智美さんの作品「Self chair」は「棚の椅子を作る」から始まったそうです。白と黒の背もたれの▽と菱形の座面のフォルムが非常にきれいで、色んな形に積み重ねて収納(本棚)にすることが可能です。椅子に座った喜多審査委員長「ちゃんと座れますよ」との感想。審査委員の9名の支持もあり、最優秀賞に決定しました。



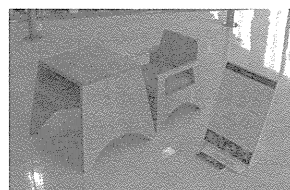
(手前)優秀賞 田中 愛美
「Kolme 成長するキッズチェア」

(後)優秀賞 内田 宙
「杉間伐材によるスツール・ベンチのデザイン制作」

優秀賞は2作品。田中愛美さんの作品「Kolme成長するキッズチェア」はやさしい丸みのある子供用の椅子。角も丸めて優しい手触りです。すべり止めもライトブルーとピンクです。作者の優しさが出ています。もう一つの内田宙くんの作品は座面の環境を考えた杉の間伐材を素材にしたベンチ・スツール。細いスチールの脚が何か昆虫を思わせるデザインです。脚の端部が金属のまま、ボルトもとびだしたまま。本人はあえてそのままにしたと話しますが、もう少し収まりを考えるのもデザイナーの役目だと思いますが…。



奨励賞 渡辺 純子
「たまごバックの家」



奨励賞 林美佐季
「Kombi」

奨励賞も2作品。一つは渡辺純子さんの「たまごバックの家」たまごバックを接着剤や塗料を使わず、切ったり、重ねたり、潰したりしてベンチやモノ入れにとその構成のおもしろさも提案していました。作品には、もっと一杯提案があったのですが、4m×5mの展示はできずに残念でした。

二つ目は林美佐季さんの「Kombi」。子供椅子を重ねたら食堂用の子供椅子、はずしたら椅子とテーブルに変わります。ハの字の形は積み重ねたら安定した安全な形になります。今年は14作品20名の大学生の作品が出品しました。審査終了後に喜多理事長の講演会を学生と一緒に聞いた後、表彰式を兼ねた学生と会員・賛助会員との交流会を開催。楽しい一時を過ごしました。来年も続けなければならないのを新たにしました。

最後になりましたが、私たちの無理なお願いに、協力していただいたBiVi福岡の方々にお礼を申し上げます。是非、来年も、続けてお願いしたいと思っています。

2011Maison & Objet (メゾン・エ・オブジェ) 視察報告

関東事業支部 菅野 民子

生活空間を彩るデザインを焦点にした国際見本市

世界のライフスタイルを牽引、世界中から注目を浴びるMAISON & OBJET PARIS(メゾン・エ・オブジェ・パリ)が2011年1月21日から25日までの6日間、パリノール見本市会場で開催された。年に2回(1月と9月)開催、ライフスタイルを彩るあらゆるコレクションが結集する最も洗練された展示会として、インテリア情報をいち早くキャッチ出来る場として、またバイイングには欠かせない場となっている。世界中が混沌とした社会状況と疲弊した経済活動であるにもかかわらず、メゾン・エ・オブジェでは毎年新しい嗜好で、世界各国の来場者をアップさせている。来場者 85,098名、特に今回は、日本人の来場者が前年比プラス41%増加した。今回は日本からの出展も過去最高の48社あり、その影響とも思われる。

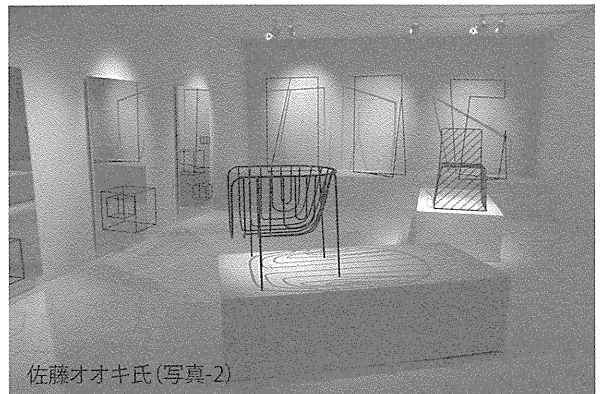
メゾン・エ・オブジェの会場は、8つのホールは生活シーンごとに分けられ、ライフスタイルに必要なあらゆるアイテムをもれなくコレクションされている。生活空間を彩るアイテムが展示されるHall.8「now!ナウ!」には、経済産業省が支援する新進デザイナーのブース「ジャパン・デザイン・プラス」、また喜多俊之氏の「KITA'S COLLECTION(キタス・コレクション)」(写真-1)のブースでは美濃や輪島の伝統工芸産地の職人さんとのコラボレーションした作品をこのHall.8で披露していた。さまざまな小物・雑貨が並ぶメゾン・エ・オブジェ最大規模の「ホームアクセサリ」Hall.6の入口の左右には、経済産業省が支援する「J STYLE + (ジェイ・スタイル・プラス)」と東京デザインセンターが運営する「crafTec(クラフテック)」のブースがあり、賑わっていた。また、Hall.5B「cote deco actual(コテ・デコ・アクチュエル)」では、高山商工会議所の「RE-MIX JAPAN(リ・ミックス・ジャパン)」が参加していた。日本のインテリア企業は遅まきながら、政府の援助を受けながら海外進出に突破口を見つけようとしているようだ。もちろん各ホールには、メゾン・エ・オブジェに数年にわたり単独に出店し続け、ヨーロッパ市場のビジネスを確実にしている企業もある。



KITA'S COLLECTION
(キタス・コレクション) (写真-1)

トレンドのテーマは「INTENSITE(アンタンシテ)“激しさ”」

メゾン・エ・オブジェで最も興味深いのは、3人の人気トレンドセッターによるトレンドブース。Hall.1では、Francois Bernard(フランソワ・ベルナル)による「Un-plugged(アン・プラグドゥ)電源を切って…」人々は電源を切りスローダウンして、過去の時代の簡略化した生活に快適さを求めるもの。Hall.2では、Elizabeth Leriche(エリザベス・ルリッシュ)が提案した「HAUTE TENSION(オット・タンシオン)「高度の緊張」では、日本の3人のデザイナーの吉岡徳仁氏、佐藤オオキ氏(写真-2)、石上純也氏らがインスピレーション展示されていた。メゾン・エ・オブジェの看板ともいえるこのトレンドブースに、最新のインスピレーション展示として日本のデザイナーが注目を浴びることは、かってないと思われる。Hall.3ではネリーロディ社の「Hypnotic(イプノチック)睡眠」。3Dなど視覚に混乱を引き起こす美学を再構築し、日常生活の強化を提案。ジオメトリックな構成が多面体で現れるシーンが不思議な魅力になっていた。



佐藤オオキ氏(写真-2)

注目はHall.7の「SCENESインテリアシーン」

国際的なインテリアブランドが並ぶ注目のHall.7の「SCENESインテリアシーン」(写真-3)では、それぞれがインテリアコーディネーションを競い合っていた。その中でも、時の人Paola Navone(パオラ・ナヴォーネ)の活躍が際だっていた。Hall.7全体のセノグラフィを担当、彼女が作り出す空間を見せるためのビジュアルデザインは、彼女の持つ繊細さと大胆さが混成された独特のものでいつも魅了させられる。また、パオラ・ナヴォーネがプロジェクトを組むイタリアの3つのメーカーではクリエイティブの高い空間になっていた。イタリアの「baxter(バクスター)」では、複雑なカラーに赤のトリミングを使った照明器具やアイアンを使ったアームチェアなどが新鮮に思えた。また、「GERVASONI(ジェルバゾーニ)」(写真-4)では、アウトサイド用の新作の白いファニチャーは優雅で、その空間は独特な雰囲気であっただった。また「LANDO(ラ

ンド)」(写真-5)のつくりだす装飾は、形・材料・伝統のスタイルがあいまった折衷主義、素朴さと幻想的なスタイルは、おとぎ話のような魅了される空間になっていた。他に、「ROCHE BOBOIS(ロッシュボボア)」、「Flamant(フラマン)」、「SOCIETY(ソサエティー)」、「MISSONI(ミッソニー)」、「KENZO(ケンゾー)」、「Richard Ginori(リチャードジノリ)」などのハイエンドコレクションが並び見応えのあるホールとなっている。

進化するメゾン・エ・オブジェ

Hall.1「ethnic chic MIC(エスニック・シック・ミック)」ではエキゾチックな東洋などのオブジェが展示されている。数年前からの民族性の強いアフリカンなどの台頭が著しいのだが、今年は淘汰されインテリアのスタイルとして確実に定着されていた。Hall.3「LA TABLE(テーブルウエア)」では、鮮やかなカラーのルクエ社のスチームケースを代表するプラチナ・シリコンの台所用品のブース

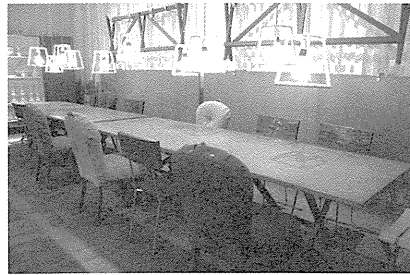
は、どこも人であふれていた。イベントして日本のシェフが招かれ「パリ・デ・シェフ」が開催され、料理もクリエイションという主催者の影響か、Hall.3では料理の実演が盛んにおこなわれていた。今、キッチン雑貨が元気なのは日本だけではないようだ。拡大し続けるメゾン・エ・オブジェでは、別の場所で開催されていた家具展示会「ムーブル・パリ」をHall.5B「コテ・デコ・アクチュエル」に移設させ、インテリア空間のすべてを網羅する巨大なライフスタイルの展示会になっている。各ホールをくまなく見ることは至難なのだが、それにもましてメゾン・エ・オブジェから受ける新しい刺激は得難いものとなっている。日本ではバイヤーが行く雑貨の展示会と思っている方が多数だと思うが、今や、メゾン・エ・オブジェから発信されるインフォメーションは、インテリアを生活シーンとして市場に広げるためには欠かせない情報として進化していると思われる。



Hall.7の入り口の(写真-3)



「GERVASONI
(ジェルバゾーニ)」(写真-4)



「LANDO(ランド)」(写真-5)

2010/9「メゾン・エ・オブジェ」見聞記

中部事業支部 安藤 清

年2回開催の同展は50thの記念展。ミラノサローネに比べ、ここ数年そのエレガントさに注目していました。毎年参加の中部IP協会の井上国際交流委員長のお誘いを受け、5名のドライブ道中を楽しみました。

パリ北西80kmにあるジベルニーのクロード・モネ館の蓮池・浮世絵・料理好きのキッチン。生前のままの邸内(京都郊外光悦村への憧れとか)は広陵とした田園風景にパリの芸術家たちが移り住んだそうです。

パリ南シャルトル大聖堂のステンドグラスの「シャルトルブルー」。夜はシャルトレインにて中世の狭い通路をくねくねと夜ごとと発車され街中随所で建物背景に光のページェント。

毎夜、プチホテルのインテリアのオリジナルは必見。最後シャンティ城のロイヤルシャンティホテルと欧州のエスプリを堪能し、最後1日のみパリノードの同展会期中毎日でも見切れず手分けして収録し、仲間の女性3人はきもので研修VIP扱いでした。

JIDからは喜多理事長がお譲様とJIPAから加藤会長他2名が昼食会招待あり。

韓国・中国が「和のテイスト」を売り込まれていました。日本がんばれ！



MEMBER'S SALON

JIDNewsを彩る会員情報の交流サロンです。
メッセージやレポート、エッセイなど、自由な会員の
声をお寄せください。

夢見る家具展・・・森谷延雄の世界・・・

関東事業支部

森谷 延周

1893年 私の父・猪三男(三男)の兄にあたる延雄は、同年10月、千葉県で延吉・ろくの長男として誕生。父親は国鉄勤務で、頑固と優しさの両面を持ち合わせ、学業を大切にす人だった。

1915年 東京高等工業学校工業図案科(現・東工大)を卒業し、清水組(現・清水建設)に入社。
その翌々年の1月、大変優しい性格のつと結婚。学生時代の夏期休暇には、奈良の古建築装飾を研究し「建築書報」に発表。
また「図案及応用作品展」(農商務省主催)に連続出品。褒状を受け、同省の買い上げとなったなど、他にも賞を受けた記録が多い。
清水組の仕事のうち「誠之堂」「晩香蘆」のことは、今日でもよく取り上げられる。

1918年 木材工芸の振興とその同業者の交流を目的とした「樗葉会」(後の木材工芸学会)の発足に尽力、同会機関誌「木工と装飾」(後の木材工芸)に、絶え間なく原稿を寄せた。
会の活動はわが国のインテリア界の発展に大きく寄与した。

1920年 清水組を退職。

文部省の命を受け、木材工芸研究のため英・仏・米三ヶ国に留学。留学中は家具・室内装飾の研究に没頭した。なかでも特筆されるのは、200枚以上の様式家具のスケッチである。ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館(V&A)に通い続け、家具の詳細な実測スケッチを描き、写真を撮り、説明書きを加え、時には着彩を与えた。

1922年 留学前に開校予定だった東京高等工芸学校(現・千葉大)で教鞭を執ることになり、これまでも増して精力的に活動するようになる。延雄は学生の頃から、創作的天分とロマンチックな情操とによって、当時の木材工芸界ではまれにみる存在だったという。性格は温厚謹直・熱心、「自分の一生は家具界の革命であり、森谷式をつくること」とし、日夜、努力を重ねて行った。

1923年～1925年 主な活動に、例えば1923年の「新しい家具装飾の展覧会附標準家具装飾メッセ」(木材工芸学会主催)の提唱、実施。1924年の「帝都復興創案展」(国民美術協会主催)の着想図や家具図案の出品があるが、より思い入れが表現されたのは、1925年の「家具を主とする食堂書斎及び寢室」(国民美術協会主催)の三つのモデルルームと思う。

その創作イメージは、グリム童話の「ねむり姫」に想を得た「ねむり姫の寢室」、オスカー・ワイルドの小説にヒントを得た「鳥の書斎」、そして、もし三々九度の盃を載せるあの朱色の台で食事を執ったら一体どんな気持ちがするだろうかという遊戯心の「朱の食堂」というものであった。

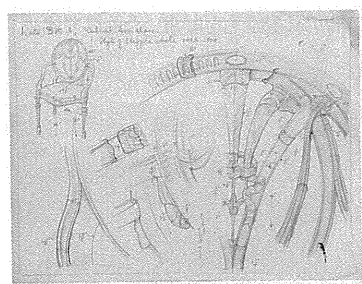
1927年 そしてもう一つは、同年の「木のめ舎家具展」(木のめ舎同人主催)の開催だった。延雄と私の父も加わった3人の同人を中心に、60種に及ぶ住宅用家具を創作し展示した。

その「趣意書」には、「生活に最も密着した家具は、美と生活を結びつけたもので、それが置かれた室内が美しい詩を物語ってくれるようなものであってほしい」とある。

しかし、延雄は他の仕事も重なって過労から病に伏し、木のめ舎家具の完成を見ることなく、同年の4月、33歳5ヶ月の若さで人生を閉じてしまった。



森谷延雄



家具の実測スケッチ



鳥の書斎



木のめ舎家具・肘掛椅子

2010年～2011年 同年3月、INAXギャラリーから「夢見る家具展/森谷延雄の世界」の巡回展(東京・大阪・名古屋の同社ギャラリー)を開催したいという大変嬉しい話を頂いた。また、同時に定評ある「INAX BOOKLET」(INAX出版)も制作するとのこと。私は即刻、出来る限りの協力を約束した。なお、会場の展示構成は、前述の内容がビジュアルに表現されている。

2010年9月3日から東京展を皮切りに、2011年2月大阪展終了。現在名古屋展開催中、5月19日まで。休館は水曜日と5月15日。
問合せ先:INAXギャラリー名古屋、TEL052-201-1716

MEMBER'S SALON

JIDNewsを彩る会員情報の交流サロンです。
メッセージやレポート、エッセイなど、自由な会員の
声をお寄せください。

「上海有情」追記

関東事業支部

浅野 盛治

私は1997年4月から2008年8月までの間、東京浅野竹居田設計事務所を開いて上海をベースに仕事をしていました。この間毎月上海と東京を往復して、月のうち20日間は上海、10日間は東京という生活をしていて上海にとけ込んでいました。この11年は上海の都市の形が最も大きく変わった時代です。上海に行った当時は黄浦江の対岸の浦東は東方明珠テレビ塔は既にありましたが金茂大廈(グランドハイアット)はやっと地上に鉄骨が見え始めていました。私が2008年に上海を引き上げる頃は浦東のスカイラインは今見られる形がほぼ出来上がっていました。「上海有情」はこの間の体験をもとに書いたものです。



浦東のスカイライン



蘇州河と高層アパート群

上海で一人で暮らすにはまず言葉が出来なくてはどうにもなりません。私は上海に行く前に少しでも中国語(普通話)の講座に通いました。中国語が上達するには少し日本語が出来る中国人の若い女性とお友達になることです。お互いの会話でネックになるのは知っている単語の数が少ないことです。そこで私は相手に電子辞書をプレゼントしました。効果は抜群で会話に詰まった時には単語の意味を調べるだけで次々に話が弾むようになりました。上海での移動手段は、自転車、バスとタクシーがメインでしたがここ10年間で13路線もの地下鉄が開通しました。名物の自転車もバイクと電動バイクに取って代わられています。これらの乗り物を利用する上海の人のマナーはとても悪く一緒に利用するには相当の覚悟がいります。



田子坊のカフェテラス



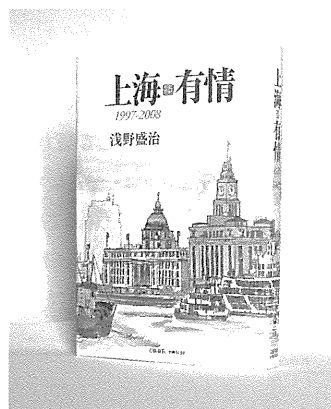
田倫路の家並み

朝夕のバスはとても込んでいてしかも降りる人よりも先に乗り込んでくるので乗るには乗れても降りるのが大変です。タクシーは空車を見つけるのが一仕事でやっとなつかまえてもぼやぼやしていると、まだ先のお客がお金を払っている最中に横から割り込んできて乗り込んでしまいます。日本のように自動扉でないので、そうされないように扉の取手を握って確保していなければなりません。地下鉄でのことです。ドアの開く位置に並んでいたところ、ホームに入ってきた電車のドアに人が張り付くようにしていっしょに移動してきて電車が止まったときにはごく自然に一番前に割り込まれてしまいました。電動バイクは日本の補助的に電動が付いたのと違って本格的にバンバン走り音がしないので歩行者にとってはまったく危険な乗り物です。



南京路の自転車置き場 バイクばかり

北京オリンピック、上海世界博覧会等のビックイベントの度に中国政府はマナー向上の大キャンペーンを行っていてそれなりに効果は上がっているようですが一朝一夕ではなかなか改善が難しく経済のみならず文化的な意味でも格差が広がっているようです。



「上海有情」

著者 浅野 盛治

発売 文藝春秋

価格 1600円

事務局からの
お知らせ

正会員 住所変更

海老沢 宏
有限会社海老沢宏環境工房
〒151-0053
東京都渋谷区代々木3-57-6グランフォーレ301
TEL: 03-6276-0758 FAX: 03-3370-5725

大野 敬二
OH・DESIGN
〒167-0042
東京都杉並区西荻北2-24-13 HARMONY53・103
TEL/FAX: 03-3396-5866

金子 重春
有限会社シゲキコウボー
〒150-0012
東京都渋谷区広尾1-11-4共立ビル702
TEL/FAX: 変更無し

鈴木 ふじ系
(株)カン・デザインニングオフィス
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-6-5シガラキビル5F
TEL/FAX: 変更無し

橋爪 浩昭
有限会社キアロ・インターナショナル
〒162-0805
東京都新宿区矢来町96番地
TEL: 03-6280-8682 FAX: 03-6280-8712

鬼田 勲
鬼田デザイン研究所
〒575-0013
大阪府四條畷市田原台5-14-23
TEL: 0743-85-5845 FAX: 0743-85-5846

玉置 豊始(自宅)
〒612-8021
京都市伏見区桃山町下野37番地
TEL: 075-200-9688

古市 伸子
(株)サーティースリー
〒550-0003
大阪府大阪市西区京町堀1-8-31
TEL/FAX: 変更無し

篠崎 恭子
センシビリア
〒151-0071
東京都渋谷区本町3-22-10
TEL: 03-6300-0860 FAX: 03-6300-0890

賛助会員 社名・担当変更

(株)I N A X
〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町オフィスビル7F
担当者: タイル建材事業部商品戦略部 小堀 誠
TEL/FAX: 変更無し

(株)サカイ
担当者 浜本 康一 → 堺 道明
MAIL: sakairib@sakairib.com
その他変更無し

JID news

企画・編集：本部広報委員会

担当理事兼委員長	石川 尚
//	小野由記子
JID news 担当リーダー	八十常充
//	委員 村上 信
//	関東事業支部 櫻井良樹
//	中部事業支部 竹川好郎
//	関西事業支部 塚口眞佐子
//	九州事業支部 前崎彌生

—— あとがき ——

春というのは、なんとなく気持ちがあうきしますね。
芽吹きや新芽の色合いにも新生の気配がみちています。
と…書き出した時に激しい横揺れが始まりました。
事務所はRC構造ですが、それが激しく軋み、デスクの下にもぐったまどうする事もできません。身体はひどく緊張し頭は真っ白でした。
災害の悲惨さとその爪あとの広がり、私たちにとって未経験のもの。それが始まった瞬間でした。

まずは、この度の地震・津波で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。救援に向かわれている全ての方々に激励と感謝を送ります。

この災害が日本に何をもたらすのか、社会がどのように推移するのか今はまだ予測できません。大きな試練にわたし達はどう立ち向かってゆくのでしょうか？ 日本人として、暮らしを支える職のインテリアデザイナーとして。

IFIのモントリオール事務局初め、スウェーデンのオーレ・アンダソン氏、フィンランドのソニー中井氏、ハナレ女史からも励ましのレターがつつぎに届いています。

小野 由記子

□次号スケジュール

- ・ エントリー締切日 5月13日（金）
- ・ 原稿締切日 5月27日（金）
- ・ 編集（校正）会議 6月17日（金）
- ・ 発行日 6月末

No.251

発行日：平成23年3月31日